

# 他者への貢献は 自己の成長が源

みなもと

## ▽たかが商店会の会長…

盛岡市にある高松の池に臨む高松商店会。その会長になったのが会員最年少の33歳の時。どうして自分が？という戸惑いと、小さな商店会の会長という役職が最年少の私のところまで下りてくることに對する苛立ちがありました。要するに、誰もやらないからもうお前しかいないぞ、という事だったので。仕方なく引き受けて嫌々ながら商店会活動に関わりましたが、楽しくもないし、やりがいも感じられませんでした。当時は、会社のパソコン事業部の責任者として、そして生まれたばかりの赤ちゃんの父親、初めての出産を終えたばかりの妻をサポートする夫として、自分のことだけで精一杯でした。そんななか、商店会の有志で地元を根差したイベントとして「たかまつ音楽祭」をやるうという気運が盛り上がり、その準備のスタートを切

りました。高松の池のほとりで、青空のもと、初夏の心地よい風を感じながらの音楽祭は、毎年2000名以上のお客様が集まるイベントになり、昨年で6回目となりました。

## ▽誰のために、何のために、なぜ

開催に当たっては、最初に「補助金ありき」ではやらない事を決めました。それは地域のイベントを自分の会社に置き換えて考えた時に、自力で運営できない会社では未来は無いと思っただけからです。結果的には、商店会会員以外の地域の会社やお店、医院からも多くの協賛をいただき、開催に至りました。

経験も予算も無いなかでできたのは、集まってくれた音楽祭の実行委員の各々が持つているネットワークと信頼関係があったからこそです。計画当初、周囲からは「協賛金集めは難航する」「やった事もないのに無理では？」



ハートブルームタウンたかまつ  
(盛岡市)  
リーダー

村上 洋樹

(高松商店会会長・  
有限会社田村工務店専務取締役  
兼パソコン事業部責任者)

と心配されましたが、「誰のために、何のために、なぜ、このイベントをやるのか？」という目的を明確にして、地元で活動をしている私たちが、地元の方々に、素直に思いを伝えたことで、意外にも協賛金はスムーズに集まりました。

また、会社でも地域イベントでも、多くの人間が関わればそれだけ様々な価値観が集まる一方で、收拾がつかなくなることもあります。そんな時こそ「誰のために、何のために、なぜ」という目的に立ち返り、共通のビジョンを再確認して進むように心がけていました。

## ▽挑戦の結果は「成功」か「学び」、 「失敗」は無い

そして音楽祭を皮切りに、手づくり映画祭、野外映画上映会、クラブフットイベントなど次々とイベントに挑戦しました。他にも経営者勉強



昨年6月に行われた「たかまつ音楽祭」の様子



「たかまつ音楽祭」と同時に行われた野外映画上映



昨年5月に行われた「クラフトPARKたかまつ」の様子

### 究極の時間管理は他の人の力を借りられる人間になること

しかし、多くを求めれば求めるほど、面白いように次から次と課題が出てくるようになってきているものです。はじめに直面したのは

会や一般財団法人の会員としていじめや差別を無くす取り組みにも参加し、気づけば商店会の会長を引き受けた時よりも、多くの役割を頂いていました。商店会も地域イベントも全てが仕事や人生に通じる気づきを与えてくれました。挑戦の結果は「成功」か「学び」であり、「失敗」は無いと腹落ちした時に、チャレンジすること自体が楽しくなりました。ミスをすれば怒られる、失敗はダメという世の中で育ってきた私にとって大きな意識の変化でした。

時間が足りないという悩みでした。そこでとった行動は、学ぶこと。がむしゃらに頑張るよりも、正しい選択を出来るように自分磨きに時間とお金を使いました。地域イベントも成功させたいけど、家族との時間を犠牲にはしたくない。もちろん仕事でも成果を挙げたい。家庭も仕事も地域も全部よくしたい。その為の近道は自分が成長することであり、成長した分しか他者への貢献もできないことを知りました。そして、「自分が出来ないから無理だ！」という考えは自己中心的な考えだと実感しました。自分には出来なくても、出来る人の力を借りることが出来れば大抵のことは実現できる。まさしく音楽祭やクラフトイベントは沢山の人の力が一点に集まった結果だと言えます。実行委員のみんなどの時間は本当に楽

しく、私にとっては伸び伸びとチャレンジできる安全安心空間です。渋々引き受けた商店会の会長でしたが、これほどの学びを得られるとは想像もつきませんでした。そして、商店会の枠を超え、地域の多くの人の力を借りて地域を盛り上げて行こうと立ち上げたのが「ハートブルームタウンたかまつ」です。

どういう人間が人の力を借りることが出来るのか？私の場合は年齢も若く、頼りがいも無かったので周りの仲間が心配して力を貸してくれた側面も大きいのですが、もう一つの要因として、「利己的ではなく、自分も、相手も、地域も良くなる明確な目的を持ち、その目的からブレないこと」が大切だと思います。

そして自分のこともしつかり満たすという事も重要だと思います。地域活動などに参加する人は自分の時間や家族の事を後回しにすることを厭わず、自己を犠牲にしてみんなの為に、地域の為にと考えがちです。それはそれで素晴らしいと思いますが、それでは自分を負かして、あるいは家族も負かして、周りを勝たせている状態なのでどこかに歪みが生まれると思います。私が地域活動に参加できるのは、会社のメンバーが現場で誠実に頑張ってくれているからであり、全ての源は家族の支えがあつてこそ。本当に感謝です。「大切な人を大切にすることができるようになれば、家庭も、会社も、地域も、もつともつと良くなる」と信じています。